

レベル2はハンズオンでなければならないか？

自動運転とはいえ、レベル2の場合は、人は運転に主体的に関与しているべきである等の理由から、システムが横方向制御を行っているときでも、ドライバーにハンドルを把持させたいという考え方があります。

しかし、システムが自律的に横方向制御を行っているなかで、それを邪魔しないように気を配りながら、長時間に渡ってハンドルを「ふわっと握り続ける」のは、ドライバーにとってあまりにも負担が大きいのではないのでしょうか。

レベル2の自動運転を行うシステムには、「人の操作入力を優先させるしくみ」が備えられるのがふつうでしょう。システムが行っている制御に悪影響を及ぼさないようにハンドルを緩く把持するにとどめてきたドライバーが、何かの拍子に意図せず瞬間的にハンドルに力をかけてしまったとします。このとき、システムのデザインに依りますが、「ドライバーは横方向制御に介入する意思を持っている」とシステムが判断し、システムがそれまで行ってきた横方向制御の機能を停止させようとするかもしれません。もし、ドライバーがそのようなシステムの判断に気づかないまま、相変わらずハンドルを緩く把持している状態を続ければ、その車は、誰からも横方向制御を受けない状態で走行を続けることになります。

一方、ドライバーによる「不適切な入力」を検出したとき、それを無視するしくみがシステムに備わっていたとします。そのようなときは、「システムの横方向制御は適切ではないのではないか」との疑念を抱いたドライバーが修正トルクを加えようとしても、ドライバーとは異なる論理を持つシステムが「ドライバーの操作は不適切」と判断し、ドライバーの制御入力を無効化する可能性があります。これは、「人と機械の意図の対立」として、古くから知られている現象です。

レベル2の自動運転においてドライバーにハンズオンを求める流儀には、上に述べたような問題があります。さらに、「ドライバーに運転に対する主体性を維持させるしくみは、人と機械のインタラクションのデザインによって実現できる」ことを考え合わせると、レベル2の自動運転におけるハンズオフを認めるべきであると考えますが、皆様はいかがお考えでしょうか。